

## 中央会創立50周年記念事業 「中国大連経済事情視察」報告

今年度創立50周年を迎えた本会の記念事業の一環として、大連市を中心に地域経済及び貿易環境の調査と県内企業等の海外経済活動の推進を目的に、去る平成17年10月15日(土)から19日(水)の5日間の日程で、総勢29名による視察を花巻発大連直行のチャーター機を利用し開催いたしました。



本会視察団出発式

### ～出発の日(10月15日(土))～

当日は生憎の雨でした。出発前に「岩手・大連友好の翼」出発式が行われ、その後本視察団の出発式を団長の本会谷村副会長からの挨拶を交え行ったのち、出発は60分ほど遅れ午後1時45分に離陸、一路大連周水子国際空港へと向かいました。

大連は岩手の空模様とはうって変わって良い天気で、まずは空の旅の無事を感謝し、専用バスに乗り込み異国の風景を車窓から眺めながらホテルへと向かいました。

大連最初の夕食は、市内のレストランで地元大連料理を味わいました。どのあたりが大連料理なのか分からずじまいでしたが、どの料理も美味しくいただきました。ただ、白いご飯だけは評判が良くありませんでした。夕食のあとはガイドの案内で足ツボマッサージ専門店へ行った方も・・・

### ～視察2日目(10月16日(日))～

この日は、午後から旅順地区の戦跡を視察する予定のため天気が心配でしたが、朝から太陽が顔を出しており安心しました。

まずは、岩手県が今年4月に開所した『岩手県大連経済事務所』を視察しました。市内の中心部に程近く便利な場所に位置し、中国人スタッフが所長を含め3名体制で県内企業等のサポートを行っています。中国でのビジネスを考えておられる企業等の方は是非ご利用くださいとのことでした。



工場内の様子(大連尾坪食品有限公司)

次に大連市内から南方の旅順にある『大連尾坪食品有限公司』を訪問しました。尾坪食品は、大船渡市の(株)尾坪商店の中国法人で、主にカットわかめの製造を、そして欧米向けの味付け茎わかめも製造しています。2001年に法人登記、2002年に操業を開始し、現在は約60名のスタッフ、売上高は2億円ほど。中国での加工においても品質を重視し、燃料も価格の安い重油や石炭ではなく、温度が安定するLPガスを用いるなど、中国だからといって質を落とすことはしていないとのこと。また、選別作業をするスタッフはかなり視力が良く、普通の日本人には見えない不具合を発見すると話してらっしゃ

いました。現地の副社長を務めるのは28歳の兼平副総経理。中国語を専攻されていたそうです。工場内で働く現地人スタッフも年齢層は若いという印象でした。

尾坪食品を後に、我々はさらに南下し旅順戦跡視察の1箇所目『水師營』へと向かいました。乃木将軍とロシアのステッセルが会見を開いた場所のすぐ隣のレストランで食事をとり、会見所を視察しました。会見所は中にも入ることができ、当時のままに壁・土の床を見ることができました。中では写真が展示され日本語の堪能な年配の中国人から日露戦争・会見について説明を受けました。

水師營の次は、少しバスで移動し、『二〇三高地』へ向かいました。駐車場に着くとすぐに我々を見つけた“籠や”が寄って来て、降りた我々に「シャチョウ！シャチョウ！」と声を掛けてきました。確かに二〇三高地の名前の由来の標高 203mの地点までは、急な上り坂が待っていました。しかし、我々の中では、誰も利用する方がなく“籠や”は残念がっていました。上まで登ると旅順港が見え、海から攻めてくる敵が一目で見えるといった場所でした。当時は、木が生い茂っていたのかも知れませんが、現在はきれいに整備され観光地化していました。休日の午前特に観光客がたくさん訪れるとのことでした。

旅順での最後は『東鶏冠山北保壘』です。保壘は日本軍とロシア軍の激しい攻防が行われた要塞の場所です。保壘の外壁には生々しい弾痕が残り、破壊された屋根・大きく崩れた壁と当時の様子が想像されました。ひとしきり視察した後、市内に戻りました。この日の夜は広東料理でしたが、前日との違いが分かりませんでした。



東鶏冠山北保壘

### ～視察3日目(10月17日(月))～

10月17日の最初の視察先、『マイカル大連商場』は日本のマイカルグループがオープンさせ、その後大連商場に買収されたショッピングセンターです。ファッション関係から家電製品、食品などが充実している造りはいわゆるデパートでした。中国の庶民ではなく富裕層をターゲットに高級感を漂わせていました。また、日本語のアナウンスがあるなど滞在している日本人にもとてもやさしいショッピングセンターとなっていました。



盤起工業(大連)有限公司

次に訪れた『盤起工業(大連)有限公司』は北上市にも製造拠点を構えるパンチ工業(株)が大連に1990年に設立した法人。国内向け「プラスチック金型用部品」「プレス金型用部品」等が生産されています。中国国内に工場を4箇所・営業所22箇所を構え、取扱高はその分野では第一位の実績を持っています。従業員2,200名は一部の管理職を除きほとんどが中国人ですが、製造部品ひとつひとつを自己責任で管理、経験年数と技術力を評価するなど、やりがいを持たせる方法をとっています。管理職にも積極的に登用、日本の常識を押し付けるのではなく、地域の特性と国民性を生

かした社員教育をおこなうなど、進出企業として成功している例といえます。

同日夕方より、『大連市貿易合作局及びジェットロ大連事務所の説明会』を開催しました。はじめに大連市投資促進センター部長姜言波氏より大連市の概況についてお話を頂きました。大連市は交通機関も発達しており日本からのアクセスも良好、定期便増発の計画もあり益々便利になると予想され、なおかつ大連市は日本との良好な関係を望んでおり、行政レベルで投資環境の整備を行っているとのことでした。

その後、ジェットロ大連事務所長三根伸太郎氏より中国進出企業の事情についてお話し頂きました。大連市を中心とする遼寧省への日系企業投資実績は香港・マカオについて第二位、貿易では第一位に位置しており、この地域は歴史的に親日的であり生活環境がよく、日本語教育を強化している大学が集中しているため日本語人材が豊富で、地理的に日本に近いなど日系企業が進出しやすくなっているとのことでした。

また大連市は、労働力が豊富かつ定着率も高く、特に教育程度が高いためソフトウェア産業も発展しつつあるとのこと。これは、中国の優先的・戦略的産業として情報産業を中核として考えていることが背景にあり、ソフトウェア産業の売上は2000年から2004年には4.1倍、輸出は6倍に増加しているとのこと。三根氏からは、対中国ビジネス戦略の必要性について「中国で何をしたいのか?」「中国とどう向き合うのか?」など事例を交えて説明いただきましたが、マーケットをきちんと調査し、あらゆるリスクを想定した上で進出している企業が成功しているとのこと。中には失敗した企業もあり、現地の事情を把握するためにも、ジェットロ大連事務所を有効に活用してほしいと締めくくりました。

なお3日目は、ジェットロ大連事務所の日向代表を交えての懇談夕食会を開催しました。四川料理でしたがこれまでの料理との違いがやはり分かりませんでした。

## ～視察4日目(10月18日(火))～

4日目最初に視察した『大連ソフトウェアパーク』は大連市西南端の星海海岸にある高等研究文化区と高新技术産業区において1998年に起工され、広大な土地(第1期敷地面積は3k㎡、第2期は7k㎡)にソフトウェア開発会社をはじめ、大手企業の研究開発部門が税務上の優遇政策適用のもと開業しています。

1999年のオープン以来、当市は「国家たいまつ計画ソフトウェア産業基地」として中国国内初の「ソフトウェア産業国際化モデル都市」に認定されているほか、国内に11カ所ある「国家ソフトウェア産業基地」の一つであり、また国内に5カ所ある「国家ソフトウェア輸出基地」の一つとなっています。

現在、パーク内の入居企業数は200社を超えており、うち3割強は外資系企業で、また全社のうちその半数以上の企業は、日本向けのソフトウェアと情報サービスのBPO業務(「ビジネス・プロセス・アウトソーシング」の頭文字を取ったもので、「企業内の業務」を一括して委託できるサービス)を行っているとのことでした。さらに同パークは人材、市場の資源を統一した形で提供するための一環として2000年6月に、同パーク内に中国初のIT関連のエリートを育成する専門大学「東北大学東軟情報技術学院」(学生数約1万人)も創設しています。

午後視察した『大連経済技術開発区』は大連市街地から20数キロ離れた郊外に位置し、1984年9月に国务院が定めた14の沿海開放都市の一つに指定され、経済技術開発区の設置を決定、同年10月に着工。企画総面積は398k㎡、開発済面積は70k㎡であり、現在は1,912社(うち日系530社)が開業しているとのことでした。

第1期開発区(1984年～)は海に面した10k㎡に工業区、商業区、生活区に区画し、人口20万人の新都市として計画され、また第2期開発区(1990年～)は第1期開発区の北東に位置する14k㎡に日中合弁大連工業団地、台中合弁振鵬工業城、保税区が開設されています。

また入居企業に対する優遇政策の一例として企業所得税が生産型外資系企業は15%(通常30%)、経営期間10年以上の企業に対しては、黒字計上年度から2年間納税免除、その後3年間は半額免除(いわゆる2免3減)のほか、地方税(3%)は、利益計上の年から7年間免税となっているとのことでした。外資企業誘致に力が入っていることが感じられました。

大連最後の食事は、中国式しゃぶしゃぶでした。牛肉から、えび団子、水餃子、うどんなどの具を鍋で煮ながらの食事となり、これまでの炒め物中心とはまた違い、これも美味しく頂きました。

## ～帰国の日(10月19日(水))～

朝9時半ホテルを出発、空港へと向かいました。帰りの飛行機は定刻に離陸、約2時間半で無事花巻空港へ着陸し、参加されたみなさんは大連のお土産を手にとりそれぞれの家路につかれました。

今回、直接視察先とは関係ありませんが、食事のメニューが日本人の口に合う料理がほとんどで好評を頂きました。食文化を知る上で毎回の食事も重要な意味を持つのですが、とうとう地域の違いはよく分かりませんでした。飽きるほど世界3大料理の一つである中華料理を堪能できました。

大連での企業視察・関係機関等視察により、中国への工場進出におけるイメージ及び市政府の日本企業への期待などが感じられ、また、土産売場などでは特に中国人商売人の気質も分かり大変有意義に視察を終えることができました。

最後に、本視察を実施するにあたりご対応いただきました各企業・団体の皆様とその手配につきましてご配慮いただきました岩手県、そして、ご参加いただきました皆様に紙面をお借りしまして御礼申し上げます。



大連ソフトウェアパークでの説明



帰国の途に着く参加者